

地域振興とまちづくり

- 日 時:平成24年11月27日(火) 13:00～
- 会 場:ホテルアバローム紀の国 3F 孔雀の間
- 講 師:(株)日本総合研究所
調査部 主席研究員 藻谷 浩 介 氏

〈はじめに〉

ご紹介いただきました藻谷でございます。本日はお招きいただきましてありがとうございます。私は和歌山で講演の仕事がありませんでしたので、今でも日本の中では一番行ったことの少ない県です。ただ、最近はお蔭様で和歌山県内、特に紀南の方で引き合いをいただいております。つい5日前にも和歌山を通ったばかりでございます。本日は、松山から参りました。松山も和歌山も同じ南海道なんですが、松山は非常に暖かいんです。和歌山に来ると寒くてびっくり致しました。去年は田辺で雪に降られました。私が来ると冷える和歌山でありますけれども、話は熱くさせていただきます。

〈和歌山県内の現状〉

●和歌山県内の人口流動の現状

まずは、和歌山県内の人口流動の現状についてお話ししたいと思います。和歌山県で人口が流れ込んできている町、引越して出て行くよりも入ってくる人が多い町というのは、現在3つしかありません。人口が増えている、減っているとは違います。住民票を移してくる人の方が住民票を持っていく人より多いということです。どことどことどこでしょうか。



一つは岩出市です。あとの二つは、日高町と太地町です。全国で一番人が流れ込んでいる市町村は、東京都の絶海の孤島、御蔵島です。二番目は軽井沢です。県内で、一番人が流れ出しているのは、今も昔も高野町です。二番目は突然由良町になってまいりました。白浜町は順調で、東京近辺の白浜便利用者のセカンドハウスが相当増えていると思われます。その方々が、退職を機に白浜に移り住んでくることによって、人口流入が増加するのです。これは、上富田とは少し状況が違います。上富田は紀伊田辺周辺の人が家を買って移り住んでるのです。岩出もそうでした、和歌山の人が一部移り住んでおります。これらは、あくまで県内の人内部で移動しているだけです。日高川にも御坊の人が移っているだけだ

と思います。日高川はすごく山奥ですよ。一方で、大阪に直結・直行している九度山や、特急の停車する湯浅や有田など、便利なはずですが人口流出が非常に厳しくなっています。大観光地で世界遺産で有名な那智勝浦も決して元気ではありません。ところが、それよりも一見不便に思える日高川の方が人口流出が少ないという面白いことが起きているわけです。

全国に目を転じてみると、東京では御蔵島・新島、沖縄の石垣島、スキーリゾートで成功している北海道のニセコ、農業（農協）の地産地消ですごく有名な群馬県の川場村、島根県沖ノ島の海士町などが人口の流入が多いところです。あと、あまり知られていませんが、北海道200市町村の中で最も年間気温が低く非常に不便な、北海道の西興部というところでも人口流入が多い地域の上に顔を出します。和歌山県内でも、便利とは言いがたい太地に人が流れ込んでいるのは、これと同じことが起きているのです。

岩出は、生まれてくる子供のほうが死ぬ人より多い、数少ない優秀な地域です。ただ、落とし穴があるわけです。岩出には大きな落とし穴があって、県内で今一番まずい状態にあるのは岩出ではないかと私は思います。和歌山も、県庁所在地ではありますが、あまり調子はよくありません。過疎地に人が流れ込むところもある一方で、全体としては大変まずいことになっていると思います。

●和歌山県内の人口減少（少子高齢化）の現状

和歌山で今何が起きているのか。国立社会保障人口問題研究所の7年前と3年後の予測です。厚生労働省で5年前からHPに出ています。この予測によりますと、和歌山県は100万人くらいしかいませんので、10年間に96,000人ずつ減っていくと、実は100年少々で県民がいなくなるというペースで人口が減少中です。どこかで止まるだろうということ



なのですが、今のところ止まる兆しはありません。そして、減少するうちの3分の1は子供です。14歳以下なら34,000人減るだろうということになっていまして、何と27%減です。これは結構まずいのです。計算してみると、37年で和歌山県から子供がいなくなるということになります。2005年から既に7年たっているのです、このペースでいくと30年後には和歌山県から子供がいなくなります。ちなみに全国都道府県のうち、和歌山県は子供の減少に関してはワースト46位です。秋田の次に悪いぐらいだと思います。どこかで止まるでしょうけど、早く止めないと、本当に子供がいなくなってしまいます。30年なんてあっという間です。

では、和歌山県の高校生以上退職前の人はどうなるのでしょうか。96,000人減るうち34,000人は子供なので、残りは62,000人ですね。これは、94,000人の減少になると予測されています。計算上、100年で940,000人減ることになりますが、もう500,000人しかいません。このペースで行くと、63年で和歌山から高校生以上退職前の人がいなくなることになりますが、既に7年たっていますので、57年後に64歳以下がいなくなる県になるという勢いで減少中です。

日本の最大の課題はこれなんです、どうしても皆さんは景気の話ばかりしています。人口が減っていると困っている人たちの前で、

景気が良ければいいのではないかと言うのは意味がありません。そもそも、和歌山は景気は悪くありません。和歌山は経済成長率日本ベスト5に最近まで入っていました。その間も県の人口は減り続けています。景気には関係ないのです。しかもその人口も、年代別に分けて考えなければなりません。総人口は100年もつのですが、実は60年後から先はお年寄りしかいないのです。お年寄りだけが10年間で12%増えているのです。75歳以上となれば、18%増です。年齢が上に行くほど急に増えていて、下に行くほど急に減っているという、とんでもない状況が起きているわけです。景気というのは経済変動の中のごく一部で、いわゆる景気循環といわれるものです。景気さえ良くなれば何とかなるというのは、昔の話です。抽象的な話を繰り返して、本当の問題から目をそむけてはいけません。和歌山の課題はこれに尽きるわけです。子供が減るのをどこで食い止めるか、現役がどんどん減っていくのをどこで食い止めるか。先ほども紹介いたしましたとおり、例えば太地町、沖ノ島の海士町は、平均的に人が流れ込んでいます。ところが人口がどんどん減っているのです。人が亡くなっていくからです。お年をめした方がどんどん亡くなっていったところに、30代を中心に人が流れ込むわけです。何が起きるのか。若返っていくのです。人口は減っていますが若返っていくわけです。太地では一瞬ですが、そういうことが現に起きたのです。そういう風に時代は変わっています。新しいそういう芽を、わずかなそよ風を大きい風として吹かせるにはどうすればいいのかということを考えなくてははいけません。

そうではなくて、景気が良くなれば何とかなるだろうと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、そうもいきません。景気ばかりに気を取られていると、もう一つの大問題である、地域間格差が立ちはだかります。

〈地域間格差〉

先に首都圏の話をしします。東京では一体何が起きているのでしょうか。これも5年前から厚生労働省のHPに載っている数字です。東京、千葉、神奈川、埼玉、1都3県には10年間で和歌山県の7割分ぐらいの人が流れ込んでいて、どんどん人口が増えています。これは、全国から若い人が上京するからです。ところが、東京も少子化しております。10年間に首都圏、1都3県の0歳～14歳が500,000人減るということです。このペースでいくと、90年で首都圏から子供がいなくなってしまう。和歌山から子供がいなくなるのは40年弱、現役がいなくなるのは60年ちょっと、そして東京から子供がいなくなるのは90年後で、和歌山県民がいなくなるのは100年ちょっと後です。和歌山県民がいなくなる頃には東京から子供がいなくなるということになります。

では、東京の高校生以上退職前の方はどうなっているのでしょうか。700,000人人口が増えるといっているのに子供は500,000人減るわけですから、この2つを合計するとお年寄りには1,200,000人の増加になります。ちなみに、この予測は震災前の予測ですので、現実に震災の後、悪いほうにはずれています。震災がなければどうなっていたのでしょうか。10年間で1,500,000人減ります。160年で高校生以上退職前の人がいなくなるというペースで東京でも今現役が減っています。これが日本の現実なんです。つまり、私が言っているのは、地域間格差という問題ではないということです。実際、東京で増えているのは、65歳以上の人だけです。65歳以上の人が10年間で45%増です。和歌山は16%増でした。また75歳以上の人は10年間で1,540,000人の増加で、63%増です。ものすごい勢いでお年寄りだけ増えています。現実に東京の人口が80年で半減すれば、税収も落ちるわけですから、景気の話は吹き飛んでしまいます。非常に深刻な問題なのです。

では、県内で一番調子のいい岩出では、どう
いうことが起きるのでしょうか。岩出市民は
7年前と3年後の10年間に2,400人増えるこ
とになっていまして、これは首都圏をも凌ぎ
ます。100年で人口5割増という、首都圏が2
割増というペースの時に岩出は2.5倍の5割増
というペースです。ところが、岩出でも子供
が減っていまして、このペースでいくと85年
ぐらいで子供がいなくなります。人口が2,400
人増えるのに、子供が1,100人減るというこ
とですから、差し引き3,500人増えているわけ
です。岩出の高校生以上退職前の人は増えて
いるのでしょうか。東京より人口の流れ込みが
激しいにもかかわらず、残念ながら減って
います。130年ぐらいで現役の人口が0にな
るといってペースで減少するという予測です。
そして、2010年の国勢調査とこの予測をく
らべてみましたところ、岩出市民はこの予測
よりも500人多く増えていました。ですが、
高校生以上退職前の人は、この予測より1,000
人減っていました。この予測よりも5年間で、
65歳以上が更に1,500人増えたというこ
とです。お年寄りだけが流れ込んでいるの
です。この予測どおりだとすると、10年
間で4,400人、60%の増加で首都圏を抜
いてしまいます。これが何を意味しているか
という、他の地域から人を呼んで来て、地
域振興をするというやり方は必ずこうなる
のです。お年寄りが増えるのに対策はあり
ません。対処するしかないのです。

〈和歌山県の課題〉

●人口減少（少子高齢化）問題に対する対策

さて、人口がどんどん減っていくことに
対して、どういう対策を打てばいいのかと
いう話をしなくてははいけません。子供を
増やしましょうと抽象的に言いましたが、
経済を活性化して、景気も良くなるよう
な対策で、かつ、和歌山であまりできて
いないことは何でしょう。それは、専業主
婦が働くことです。なぜ



女性が働くといいのでしょうか。特に20代、
30代の若い女性に限定します。和歌山県
では、若い女性はまだ働いていません。そ
してデータを比較すると分かるのですが、
和歌山は、大阪・奈良・京都・神奈川・
埼玉・千葉といった大都市圏と並んで子
供の出生率が低いのです。つまり、女性
が働いているところでは子供が生まれ
ていない代表といえば、イタリアとドイツ
なのですが、女性はあまり働いていません。
同じような国でありながら隣のオランダ
ではすごく子供が生まれておりまして、
女性が7割ぐらい働いています。日本は
45%です。北欧も多くの女性が働いて
いまして、出生率が2を必ず上回って
います。世界でも同じ傾向があるの
です。困ったことに、それが逆だと思
い込んでいる人が多いのです。よく考
えてみれば当たり前のことです。収入
が低いので、子供を生まないわけ
です。つまり、女性が結婚しても働
き続けられる地域ほど出生率が高
いということになります。女性が
働くことが子供が減るということ
は決してありません。

日本と和歌山の最大の課題はこれです。
しかも和歌山は全国の約2倍速で少子
高齢化の道を辿っています。男性も
会社も、仕事より家庭を優先する
日本にならないと先はありません。

そんなことは日本の問題ではないと
おっしゃるかもしれません。つまり、
日本の問題

は、人口が減っていることではなく、工場がどんどん潰れ国際競争に負けていることではないかということです。しかし、日本の工業の出荷額は決して円高になってからも減っていません。しかも従業員一人当たりの生産性は、バブル期に比べ1.5倍に増えています。経済学では、生産性とは国際競争力のことです。つまり、日本の国際競争力は25年間に1.5倍に増えたということです。さらに輸出量も1.5倍に増えています。和歌山県は全国の中でも、工業が潰れずに残っている2大工業残存県の1つです。日本の輸出量を絶対数でグラフにすれば、1ドル100円が70円台になっても、輸出は減少していないのです。確かに利益は減少しますが、輸出は減少していません。ところが、日本は今赤字です。なぜかといいますと、輸入が跳ね上がっているからです。震災後、原発の事故をきっかけに輸入が跳ね上がりました。石油とガスの値段が上がったからです。円高が原因ではありません。

では、円安になると日本の赤字は解消されるのでしょうか。円安になれば、むしろ赤字が拡大します。円高になったおかげで、これだけの世界的な石油の値上がりが日本ではあまり直撃を受けていません。何が言いたいかといいますと、世の中で起きていることはきちんと数字を見て判断してくださいということです。地域間格差は拡大の一途であるとか、都会だけが元気であるとか、円高によって日本の輸出に影響が出ているとか、全部逆なんです。きちんと数字を見れば分かります。日本は現在、中国、韓国、台湾、シンガポール、インド、アメリカ、ヨーロッパに対しても黒字です。冷静客観に考えて自分の会社をきちんと経営するのと同じ感覚で国のことを考えてください。そうすると道は非常にはっきりしてきます。問題は、そもそも人がいなくなることです。理解していただける方が一人でも増えればと思います。本当に長時間ありがとうございました。